

平成24年度 第6回 市民と市長の対話集会 市長と語りう！ほっとミーティング

開催結果報告書

- 1 開催日時 平成24年（2012年）7月28日（土）
午後1時30分から午後3時30分まで
- 2 開催場所 八幡公民館 大ホール
- 3 テーマ 八幡地区のまちづくり
- 4 出席者 参加者11名 傍聴者10名



八幡公民館での集会の様子

5 市長あいさつ

皆様、こんにちは。本日は暑い中、また今晚開催される八幡地区の盆踊り等、地域の様々な行事があるお忙しい中、対話集会に御参加いただき御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

今日は平塚学園高校が高校野球神奈川県大会の準決勝を戦っていて、私も横浜スタジアムに行って校長先生や学生たちと一緒に応援しました。四番打者で一塁手の相原選手が平塚市四之宮の出身とのことで、平塚市に大変所縁がある平塚学園高校には、ぜひ甲子園に行ってほしいです。

昨年3月11日の東日本大震災は、その後の自治体の政策を決める上での大きな出来事でした。私も就任以来、津波対策を中心とした防災対策を進めてまいりました。対策は今後も継続して行います。8月初めには、防災マップを市内全家庭にお配りします。防災マップには津波のハザードマップや地域の揺れやすさ、防災に対する心得などを盛り込みました。この対話集会においても、昨年度は4回、防災対策をテーマに開催して市民の皆様の御意見を伺いました。皆様からの御意見は防災対策にも反映させていただきました。

今年度の対話集会では、自治会連絡協議会ごとに各地域を回らせていただき、地域のまちづくりをテーマに対話をさせていただいています。まちづくりに対する御意見も市政に反映していきたいと考えます。4月に開催した岡崎地区から田村、なでしこ、土屋地区に伺い、7月15日（日）には豊田地区へ伺いました。そして今日は6回目の開催で、この八幡地区に伺いました。

平塚市の各地域は独自の豊かな文化や歴史、人材を持つ素晴らしい地域です。地域の課題を地域で捉え、地域の皆様のお力で解決して地域の魅力が増すことは、その地域の集合体である平塚市をさらに素晴らしいまちにしてくれると考えています。

今日は御意見をいただき、具体的な回答ができないこともあるかと思います。その時には一旦持ち帰り、担当課に確認して皆様にフィードバックさせていただきます。どうぞ、本日はよろしく願いいたします。

6 主な対話集会の内容

① 防災対策について

【参加者】

災害時の一時避難場所として八幡公園を活用していますが、隣に使われていない神奈川農政事務所があります。八幡地区住民の一時避難場所として開放していただきたいです。

また、八幡公園は国の管理です。みどり公園・水辺課に確認したところ、避難時に看板や照明を建てるためには国の許可が必要で、災害時の利用には支障がありそうです。公園を市の管理にするなど、融通の利きやすい管理体制にしてほしいです。

【市長】

現在、地域防災計画を見直しています。地域防災計画とは、市や町の防災対策計画の指針となるものです。昨年3月11日の東日本大震災を受け、津波対策や帰宅困難者への対策、地域を守るための女性の視点からの対策等、新たに起きた課題への対策を考えて計画をつくっています。

避難所の位置付けの見直しも行っています。市内には県立の高校や施設があり、市民の皆様が避難できるように県と協定を結んでいます。神奈川農政事務所も今は使われていませんが、防災対策の点から、どのように地域の皆様が使えるかということを確認させていただきます。

八幡公園は国の管理です。担当課に確認し、国から市への移管の手続きができるか、また一時避難場所として使用する時の課題を調べて対策を考えさせていただきます。

担当課回答（集会後、次のとおり担当課に確認しました。）

八幡公園は国有地無償貸付により開設している公園であり、公園施設の変更や占用物件の設置においては許可が必要となりますが、公園の日常管理や使用等は本市に託されています。

公園は休息、観賞、遊戯、運動、その他レクリエーション利用とともに災害時の避難等に資する公共空地であり、一時避難場所として利用することに支障はありません。また、災害時の看板や照明の設置についても支障はありません。

今後とも、公園を安全で安心して利用できるよう努めてまいりますので、御理解、御協力をいただきますようお願いいたします。

（事務担当はみどり公園・水辺課公園施設管理担当）

担当課回答（集会後、次のとおり担当課に確認しました。）

神奈川農政事務所旧平塚庁舎の跡地利用について、これを所管する関東農政局神奈川農政事務所を確認したところ、現在、当該土地建物は売却のための入札を控えている状態にあり、市への移管は難しいという回答でした。

このことから、本市としても、当該土地を一時避難場所とすることは難しいと考えます。

（事務担当は防災危機管理課防災担当）

【参加者】

震災後、大切なものは命だと改めて思い、命を守るために一番重要なことは人と人とのつながりであると感じました。つながりがあれば、防災対策だけでなく、高齢者の孤独死も防げると思います。今、マンションなどでは自治会に入らない人も多くいたりするなど、近所でのつきあひも希薄な時代です。地域住民の心がつながるまちづくりが必要だと思います。

【市長】

震災後、地域や人がどのようにつながりを持って災害に対応するかが問われています。「絆」という言葉がありました。東北地方は大変厳しい状況になりましたが、今も人と人が支え合っています。

防災対策には、自助、共助、公助があると言われます。自助とは自分の命を自分で守る対応です。共助とは地域が地域を守る対応です。公助とは行政が市民の皆様を守るための対応です。行政が行う公助である避難所の整備や備蓄の用意などはしっかりと行います。しかし、災害に強いまちになるために、今最も共助が問われています。共助のために一番大切なことがつながりです。つながりをつくるための対策も考える必要があります、新しい防災計画には入れ込む必要があります。

つながりづくりの対策において、災害時の要援護者登録制度を進めています。災害時に援助が必要な高齢者や障がいのある方のことを地域の皆様に知っていただくことが重要です。行政からの情報提供には個人情報課題もありますので、援助が必要な方から行政や地域への情報発信をお願いしています。

自治会をはじめ、地域の皆様には行政に御協力いただき大変御苦勞をおかけしてしまいますが、行政も日常生活の中で地域の皆様がお互いのことを知りあえるような応援も行いたいと考えます。

【参加者】

昔から、平塚八幡宮から北に津波は来ないと言われてきました。しかし、東

北地方を襲った津波を見て、この八幡地区も安心できません。
また、電力の対策として、風力発電なども必要だと思います。

【市長】

昔からの言い伝えは本当に大切に、先人の言うことは本当に当たっています。確かに、大きな津波が平塚市に来ても、平塚八幡宮までだと言われてきました。

しかし、想定外の津波が東北地方を襲いました。神奈川県では、慶長型地震発生50分後に約6.6メートル、元禄型関東地震と神縄・国府津-松田断層帯の連動地震発生19分後に約6.9メートルの津波が平塚市に到達すると予測されます。昨年度には、東海大学の先生と協調して6メートルと10メートルの高さの津波が来た時のCG（コンピューターグラフィックス）を作成しました。今回は19分後に6.9メートルの高さの津波が来た時の浸水を想定した地図「平塚市地震防災マップ・津波ハザードマップ」を市内全家庭にお配りします。津波が起きた場合、自分の地域がどのような状況になるかを確認して防災訓練等に役立てていただきたいと思います。

また、原子力による電力が問われています。市役所も15から20パーセントの節電に取り組んでいますが、今後は自然エネルギーの研究も進めていきたいと思っています。

【参加者】

自主防災組織等の班編成ですが、字（あざ）名による編成から新町名による編成にした方が住民も分かりやすいと思います。例えば、適正な戸数や町名で分けることを決めた指針があれば良いと思います。

八幡地区の避難所は八幡小学校と神明中学校です。東八幡の地域の住民の避難所が八幡小学校、西八幡の地域の住民の避難所が神明中学校とは決まっていません。町名別に分けたり、避難所を一つにした方が地域の住民が一つになって災害に対応できると思います。

【市長】

一時避難場所とは、まず命を守っていただく地域に近い場所です。その後、家などが壊れてしまった方などに避難していただくところが避難所です。当然、他の地域にいて災害に遭った時には近くにある一時避難場所に避難していただいても構いません。決して他の地域の方を拒むようなことはありません。このことは機会があるごとに市民の皆様にお話させていただきます。

自主防災組織等については、班編成の難しさがあります。物資班や食料班な

どの分け方についての指針はありますが、区域を分ける指針はありません。今後は区域を分ける指針についても研究させていただきます。平成12年頃、班編成の区割りを地区自治会連合会からいただきました。時間が経って地域の考え方も変わるので、地域の御意見を反映しても良い頃です。八幡地区の避難所については、御意見のとおり、東八幡の地域が八幡小学校で西八幡の地域が神明中学校という分け方もあると思います。今後、防災危機管理課では地域の班編成などの御相談にも乗らせていただきたいと思います。

【参加者】

AED（自動体外式除細動器）について、設置数を増やして扱える人を増やすような取り組みが必要だと思います。

【市長】

AEDは公共施設を中心に配置しています。自動販売機に併設して設置されているところもあります。正確な適正配置は分かりませんが、どこで必要になっても使えるような場所に配置されるべきです。今後は適正配置も研究し、取り組んでいきたいと考えます。

AEDを扱える人を増やすことも必要です。今は中学生にも講習をするようになりました。消防本部では毎年、使用できる人が増えるよう講習を開催しています。今後は、公民館を利用される団体の方なども受講できるよう、講習への呼びかけをしていきたいと思います。

② 安心・安全について

【参加者】

八幡地区の駅前通り線の歩道が広がったことは良いですが、広がった歩道での駐車や軽自動車の走行が非常に危険です。また、自転車も危険で、猛スピードで走る自転車に高齢者が当て逃げをされる事故が起きています。行政として、自転車の乗り方の指導を徹底してほしいです。

また、自転車による事故も起きているので、自転車にも自動車のナンバープレートのように、鑑札が必要であると思います。当て逃げ事故が起きた時に役立つと思います。

【市長】

歩道の拡張による課題は、道路の担当や交通安全対策の担当にも伝えます。

自転車への鑑札については、道路交通法も関わって大変難しいことですが、高齢者の方が当て逃げをされる事故や自転車が地域の皆様に危険や不安を与えている状況を見過ごすことはできません。対応を考えさせていただきます。道路交通法において、自転車は歩道でなく、車道を走ることになっています。自転車による事故に対しては、警察とも連携を図って対応したいと考えます。

また、平塚市は自転車のまちです。現在、総括的に自転車専用道路の整備も検討しています。

担当課回答（集会後、次のとおり担当課に確認しました。）

本市は「自転車事故多発地域」に指定されていて、自転車が安全に利用されることは重要な課題であると認識しています。そこで、自転車利用マナーについては、これまでも本市では年間200回程度の交通安全教室を開催し、延べ20,000人以上の方に参加していただいているほか、平塚警察署や平塚市交通安全協会などの関係団体と協力しながら自転車マナーアップキャンペーンを実施したり、市内の小・中学校や高校の全ての児童・生徒に自転車のマナーアップ等に関するチラシの配布を行い、その啓発を図っています。

八幡地区の駅前通り線については、平塚市交通安全協会八幡支部の交通指導員の方々が定期的に駅前通り線を通行する自転車利用者に対して、街頭指導をされていると伺っています。このような地域の活動とも連携しながら、平塚警察署や平塚市交通安全協会などの関係団体と協力して、自転車事故が発生しないよう引き続き努力していきます。

（事務担当はくらし安全課交通安全担当）

【参加者】

八幡地区の通学路には、道がとても狭いところがあります。毎朝、老人クラブの人が通学路の危険な場所に立って子どもの通学を誘導してくれているそうです。

狭く危険な通学路については、時間帯によるスクールゾーンの指定を行うべきだと思います。

【市長】

老人クラブなどによる通学路の見守りを本当にありがたく思います。学校では通学路を検討する中で、道路状況を考慮して安全なところを求めています。本来、通学路の歩道を整備する必要があると思いますが、全てを整備することは難しいことです。そこで、特に整備が必要な場所や安全対策については、地域の皆様のお話を伺って進めていきたいと考えますので、ぜひ御意見をお願いいたします。

子どもの安全を守ることはとても大切です。学校や行政からは、時間指定によるスクールゾーンを要望しています。しかし、スクールゾーンを指定された道路の周りに住む地域の皆様の生活に支障が出てしまうという課題があります。そこで、通学路における子どもの安全のために、これまで茶色だった横断歩道前の注意喚起のアスファルトを水色や黄色にして目立たせているモデル地域もあります。

【参加者】

小学校への入学時、交通安全協会が児童に自転車の乗り方などを教えてくれるそうです。しかし、その後に同様の教育はないようです。4年生や5年生になった時に再度教える必要があると思います。教育委員会が考え、全市的に行ってほしいです。

また、小・中学生だけでなく、高校生の自転車の運転は非常に危険です。高校生に対しても、学校で自転車の乗り方の教育や指導を徹底してほしいと思います。

【市長】

小・中学校では交通安全教室を行って自転車の乗り方を指導しています。高学年になった時の交通ルールや自転車の乗り方のおさらいについては、教育長や教育委員会に話をさせていただきます。

高校生についても、警察などを通して、生徒への指導や教育をお願いしておきます。

担当課回答（集会後、次のとおり担当課に確認しました。）

自転車の乗り方などの交通安全教室については、これまでも本市では年間200回程度開催し、延べ20,000人以上の方に参加していただいています。このような小、中学校での自転車の乗り方教室については、小学校からの要請に応じ、中学年や高学年の児童を対象に実施しています。

高校生の自転車のマナーアップについては、定期的に市内高校の全生徒に対して、チラシの配布を行い、その啓発を図っています。また、平塚警察署や平塚市交通安全協会とともに、市内全ての高校の交通安全担当教員を対象に「交通安全指導者研修会」を開催し、自転車の乗り方を中心に交通安全に関する情報の共有と課題解決について、意見交換をしました。この研修会の際に本市が実施している交通安全教室の説明をし、開催についての要請をしました。

今後も交通安全教室等の様々な機会を通じて、自転車マナーの周知徹底に引き続き努力していきます。

（事務担当はくらし安全課交通安全担当）

交通安全教育として、各学校では学級活動や日頃の生活指導及び長期休業前等に繰り返し指導しています。また、子どもたちは体育の保健の分野において交通事故の防止について学んだり、道徳で遵法精神や公德心を身に付ける学習をしています。

道路への飛び出しや自転車の危険な乗り方などは、人の迷惑になるばかりでなく、ともすれば、命に関わることにもなりかねません。このような現状を受け止め、今後も、くらし安全課や交通安全協会等の関係機関と協力しながら、交通安全教室の充実を図るとともに、全ての子どもたちが学習したことを実生活に活かし、正しい交通ルールやマナーを積極的に遵守する態度や人や自分の命を大切に思う気持ちを育てていくよう、さらなる指導を行ってまいります。

また、子どもたちにルールやマナーを確立するためには、我々大人が良い手本を示すことも重要です。これからも家庭や地域の皆様のお力もお借りしながら、交通安全教育を推進してまいりますので、御理解、御支援をお願いします。

（事務担当は指導室）

【参加者】

地域での教育も必要です。校庭での教育だけでなく実際の道路で教えることが大切です。そのためには、我々自治会などの地域の住民が道に立って注意する必要があります。我々も協力して行いましょう。

③ 教育・子育てについて

【市長】

子どもには親や学校、地域での教育が大切です。親の教育や子育ては基本です。しかし、親の教育力の低下が問題視され、つながりや地域の中で子どもを育てることが求められていると思います。

今、いじめの問題があります。人とのつながりの薄さがいじめの蔓延の一つの要因であると思います。平塚市では、いじめの注意喚起のため、教育委員会から学校や保護者宛に文書を出しました。教育委員会には、いじめの問題に対しては透明性を持って対応するよう話しています。これからの平塚市を担ってもらう子どものために、地域の皆様のお力も必要です。御協力をお願いいたします。

【参加者】

平塚市の市歌を学校教育に取り入れてほしいです。

【市長】

平塚市を愛する市民として、市歌は大切にしてほしいです。群馬県の方は県歌に誇りを持っているという話を聞きました。平塚市の市歌ですので、ぜひ平塚市を担う子どもに教えてあげてほしいと教育委員会には話しています。また、学校だけでなく、市民の皆様が市歌を聞き、歌うような機会を多く設けていきたいと考えます。

【参加者】

主任児童委員をしています。八幡公民館では子育てボランティアを招き、月に1回子育て広場「のびのび」を開催しています。多くの方はベビーカーで子どもを連れて来ますが、他の地域などの遠くから来る方もいます。できるだけ車で来ないようにしてくれたり、車では乗り合わせて来てくれますが、他の講座と重なることもあります。利用者のために、もう少し駐車場があると良いと思います。八幡公民館だけでなく、例えば豊田にある子育て支援センターも同様です。市内には良い施設や事業があり、遠くから通いたいお母さん方もいますので、駐車場のことを御検討ください。

また、こども家庭課などから応援していただいている子育て支援ですが、もっと多くの市民に知ってもらえると良いと思います。

【市長】

公民館等では様々な活動をしていただいています。ハード面の整備には場所やお金がかかります。近くの借りられるスペースなどを施設や事業の担当者に

御相談いただいて結構ですので、よろしくお願いいたします。田村地区では公民館まつりなどを開催するときに北側の会社の駐車場を借ります。八幡地区においても、同様の要望はいただいています。課題として、担当では考えていきたいと思えます。

市として、子育て支援には力を入れていきます。今は、家族単位も小さくなり、身近なところで子育ての相談が難しくなっています。子育てに対する行政の役目を果たす必要がありますので、今後も子育てに対する応援は続けていきます。

④ 健康・福祉について

【参加者】

八幡地区には町医者が少ないです。市民病院や共済病院は遠く、高齢者は通うことも大変です。今後、八幡地区は高齢者が増える地域なので、通いやすい病院が必要だと思います。

【市長】

行政では、市内における医療機関の適正配置を考えています。例えば、私の住んでいる田村地区には全然医療機関がありませんでした。医師会へのお願いを続け、ここで2か所設置していただきました。八幡地区においても、担当課にて、医師会への依頼を考えさせていただきたいと思います。

担当課回答（集会後、次のとおり担当課に確認しました。）

八幡地区での民間医院の開設について、関係機関である神奈川県平塚保健福祉事務所や平塚医師会に協力要請をしております。

（事務担当は健康課予防担当）

【参加者】

八幡地区でマンションを経営しています。入居者に生活保護を受給している方が増えました。中には、部屋を壊したり、家賃を払わないような人もいます。私一人では手に負えなく、市長への手紙を出し、生活保護の担当者に相談しましたが解決しません。本人のことを聞いても、個人情報という理由で教えてくれません。市役所の法律相談や裁判所に相談しましたが、的確なアドバイスはもらえませんでした。弁護士に相談するべきですが、金銭的に難しいです。他に相談する人もいなく、本当に困っています。

【市長】

生活保護を受給される方は年々増えています。憲法に基づく、セーフティネットという制度としての生活保護については、行政もしっかりと行っていく必要があります。国の制度ですが、最低賃金による給料より生活保護受給額の方が高いという課題もあります。不正受給や暴力団の資金源となるような問題もあります。担当課には、的確に調査を行って審査するよう指示しています。国や県、警察との連携を強化して体制を整える必要があります。

賃貸契約においては、行政が民と民の契約に入ることは難しいことですので御理解をお願いいたします。個人情報についても、守らざるをえません。しかし、市民の皆様的生活に影響が出てしまっている今、個人情報の取り扱いや問題への対応も考えていかなければいけません。

【参加者】

地域には自治会もありますので、相談してみてもいいですか。公民館では自治会役員のことを可能な範囲で教えることもできます。

【参加者】

八幡地区には様々な活動をするサークルもあります。サークルに入れば、お友達がたくさんできて困っていることの話や相談もできます。その中で解決できることもあると思います。

【参加者】

地区レクなどもあり、自治会役員や多くの地域の方が参加しています。積極的に参加して話をすれば、知り合いや友達が増えて相談する仲間ができます。

【参加者】

ありがとうございます。皆さんの考えやアドバイスを聞いたことが収穫です。今後、何かで悩んだ時、地域の皆さんに相談できると分かって良かったです。解決の糸口が見つかった気がします。

【参加者】

市営住宅に生活保護受給者専用の枠を設けることはできませんか。専用の枠があれば、このような問題は起きないと思います。

【市長】

市営住宅における生活保護受給者への枠については、これまで検討してきたこともあります。しかし、現在の平塚市の住宅状況の中で、専用の枠を設けることは難しい状況です。しかし、今後も大きな課題として捉えさせていただきます。

担当課回答（集会後、次のとおり担当課に確認しました。）

入居者のトラブル等に関しては、賃貸契約上は契約書にのっとって対応していただきたいと存じますが、家賃を滞納している生活保護受給者に対する対応策としては、本市では平成23年度より家賃の代理納付制度が始まっていて、その制度が御活用いただけるかと思えます。ただし、条件によっては御活用いただけない場合もありますので、詳しくは生活福祉課生活福祉担当までお問い合わせください。

（事務担当は生活福祉課生活福祉担当）

⑤ 文化・伝統について

【参加者】

八幡地区には年に3回お祭りがあって自治会が指揮をとっていますが、自治会には後継者がいません。地域の伝統と文化の後世への継承は地域の活性化につながります。また、八幡地区には商店街の努力による夕顔まつりがありました。お祭りによって八幡地区は活性化し、他地区からも高い評価を得ていました。そのような地域の伝統は残ってほしいと思います。

【市長】

自治会役員は地域の皆様が均等に行っていただくことが理想ですが、偏りはあります。地域の皆様によるまちづくりも、それぞれの立場で支援いただく体制が良いと思います。行政も自治会へは負担をおかけし、大変申し訳なく思っています。負担をかけ過ぎないように、今後も十分に気をつけてまいります。

お祭りについても、地域の支えになるお祭りは大切にしてほしいと思います。私も市役所の商工課で働き、当時は商店街が非常に賑やかで、商店街ごとのお祭りもありました。八幡地区の夕顔まつりも長く行っていただきました。地域の皆様ができる範囲で続けていただき、皆様の力で盛り上げていただくようなお祭りが良いと思います。

今年、七夕まつりが62回目の開催でした。昨年は東日本大震災の影響で開催が危ぶまれました。市民の皆様の話を伺った時、開催を希望する声が多くあり、思いきって日数や時間、催し物を縮小して開催しました。今年のテーマは再出発でした。七夕まつりを持続可能なものにするため、日数を3日間にして、商店街が大きな飾りを出せない中で市民飾りや子ども飾り、協賛いただいた企業に飾りを出していただきました。嬉しかったことに、300人を超えるボランティアの方がごみの処理や案内などに関わってくれました。実行委員会も、市が中心となっていたものが商工会議所や青年会議所に代わりつつあり、七夕まつりは皆の力で盛り上げるお祭りになってきています。本当に今年の開催に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

【参加者】

今年の七夕まつりは露店が少なくてよかったです。商店街に客が集まって店が儲け、さらに飾りを出してくれるような良い流れができると思います。

【市長】

露店は約900店から約400店に半減しました。地元の商店にお金を使っていることが一番良いことです。このことはこれからも進めていきます。

7 市長によるまとめ

今日はお時間をいただき、貴重なお話を聞かせていただきました。本当にありがとうございました。

お話を伺い、この地域の人と人とのつながりの強さや意識が八幡地区をまとまりのある住み良いまちにしてくれていると感じました。このつながりを活かし、地域の課題を地域で捉えてさらに輝く八幡地区にさせていただければありがたいと思います。行政としても、皆様の地域づくりに対する思いを形として現わされるように皆様への支援をしていきます。

私が目指しているまちづくりは、それぞれの地域が輝くために、地域が力を持って地域の課題を解決する仕組みづくりを行政が後押しする体制をつくることです。例えば、現在、自治会や美化、体育振興に使う予算を地域にお出ししています。いずれは、この予算をそれぞれの地域が何にいくら使うかということまで地域の皆様に考えていただきたいと思います。このことが実現できれば、さらに地域の活性化が図れるはずです。これを地域内分権と言います。全国でも小学校区に公の公民館が1館ずつあるまちは平塚市の他にありません。27ある自治会連絡協議会を中心とする地域が輝くまちづくりは、その地域の集合体である平塚市がもっと良いまちになることにつながります。

今後も皆様の御意見を参考に、より良いまちづくりを進めていきます。本日は本当にありがとうございました。

アンケート結果報告

【回答数 21件（参加者 11件 傍聴者 10件）】

参加者・傍聴者について

年齢

20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	不明
0名	1名	1名	3名	7名	7名	2名

性別

男性	11名
女性	9名
回答なし	1名

質問1 今回の「ほっとミーティング」の開催はどこでお知りになりましたか。

回答

	参加者	傍聴者	計
広報ひらつか	6名	3名	9名
ポスターやチラシ	0名	2名	2名
町内会など地域から	4名	3名	7名
市ホームページ	0名	1名	1名
その他	1名	1名	2名
回答なし	0名	0名	0名

質問2 市長との対話はいかがでしたか。

回答

	参加者	傍聴者	計
よかった	10名	6名	16名
まあよかった	1名	3名	4名
どちらともいえない	0名	0名	0名
あまりよくなかった	0名	0名	0名
よくなかった	0名	0名	0名
回答なし	0名	1名	1名

質問3 質問2であまりよくなかった、よくなかったと答えた方について、市長との対話でよくなかった点はどのような点ですか。

回答 ・なし。

質問4 御自身の考えや思いは伝わりましたか。(参加者対象)

回答

伝わった	4名
まあ伝わった	2名
どちらともいえない	1名
あまり伝わらなかった	0名
伝わらなかった	1名
回答なし	3名

質問5 質問4であまり伝わらなかった、伝わらなかったと答えた方について、御自身の考えや思いについて、伝わらなかった点はどのような点ですか。(参加者対象)

回答 ・市全体のこと。

質問6 対話集会について、御感想や運営への御提案はありますか。

回答 ・身近な問題等、大変分かりやすくお話しいただき、ありがとうございました。
・今後も続けてほしい。
・市長の前向きな考えが伝わりました。
・我々地域の住民ももっと参加するべきです。
・大変良い対話ことができました。
・地域のことだけでなく、市政全般の話題も取り上げた方がよい。
・様々な考えを持つ人がいることが分かった。
・市長の熱い思いを感じました。
・市長の考えや思いが分かりやすかった。